



# 鳥見の記 散策の発見

第11回 今夏チャレンジしてみよう!

2019.6



(写真上) 戸頭駅沿いの菜園にて

(写真下) 第2調整池で小魚をくわえたカワセミ





サラリーマンの頃は季節の移り変わりを衣替えやオフィスの冷暖房で気づいたものですが、一線を退いた今では、自然の中で、草木の芽吹きや風から五感で感じるようになりました。

散歩の道すがら、次々と咲く花に季節の移ろいを感じます。春に巣立ったスズメ、ツバメやシジュウカラなどが、仲間どうしで公園や電線の上で元気に遊び戯れる様子を見たり、鳴く声を聴くと春の終わりを知ります。そして熟した梅が落ちる頃、南から梅雨入り宣言が次々と北上してきます。朝晩ホトギスの鳴き声を聴けば「夏～は来ぬ」と夏が近づいたことを知り、雨の続く日と、晴れ間の蒸し暑い日が繰り返せば、本格的な暑い夏になるんだと実感します。



朝日を浴びるスズメ さくらの杜公園の原っぱ



子ツバメ 市之代付近の農業用水路のアシ原



オオヨシキリ 第2調整池の林



サシバ 貝塚用水機場付近の林縁



梅雨入りすると、散歩は天気左右され、雨の日は「はてさて、何しよう」と朝から悩むこともしばしば。散歩中に撮った写真の整理をと思いつつも、雨の日の午前中はついゴロゴロと無為に過ごしてしまいがちです。それでも雨が何日も続くと、気を取り直して撮りためた写真を見返し、お気に入りの写真を選びだしてはアルバム作りに精を出します。



アガパンサス さくらの杜公園交差点付近



野原の雑草に混じって咲くケシ

雨上がりの早朝の散歩には、表紙の「虹とヒマワリ」のようなシャッターチャンスに巡り合える梅雨どきならではの楽しみがあります。次の2点の写真も雨上がりの朝に、田んぼの畦道の水溜まりで水浴びするスズメたちと、夏の大雨で水の引かない第2調整池の水溜まりで遊ぶカルガモに遭遇した瞬間です。



水浴びする2匹のスズメとカワラヒワ(黄色の羽)



水溜りの第2調整池原っぱのカルガモ



日差しが強くなった夏の日の朝 戸頭駅へのアプローチロード



夏鳥の代表のようなホトギスやカッコウは、鳴き声を守谷市内やみずき野で聴くことはあっても、シャッターチャンスに恵まれず、未だ『俺の鳥図鑑』の夏鳥のページに載せらずに今に至っています。この時期、ブラリーマンのバーダーには「夏枯れの鳥見」になりますが、今年の夏はカメラを担いで、<sup>いずこ</sup>何処へと出かけてホトギスやカッコウをショットし、後日「夏鳥の鳥見の記」をご披露したいと新たなチャレンジ目標に燃えています。



夏 黄色のアサザが沼一面に鮮やかに咲く守谷沼とTX

みずき野とその周辺の身近な環境でも、自然の豊かさを感じられる雰囲気のある場所やほのぼのとした瞬間に巡り合えることが沢山あります。「しめしめ」そんな光景をカメラ目線で切り撮ったと思いきや、後日PCで見直すと、その時の陽の温かさ・光の強さ・風や草木の色等々、その場で感じた雰囲気や季節感が思うようには再現されておらず、がっかりすることもあります。



お散歩中のカルガモ親子(右から3番目が親ガモ)



農業用水路の貝塚橋付近で遊ぶカルガモの親子





一昨年の夏、7月上旬に子育てするカルガモを観察できたが今年は見られるかな？



朝やけの守谷沼で餌をあさるアオサギ



夏の守谷沼に出現するチョウチョウトンボ



昼下がり夏空と戸頭駅ロータリーのモニュメント



夏空にそそり立つタチアオイ



夏 ビィ〜ン・ビィ〜ンと鳴くカワラヒワ



昨年8月初旬、朝方から汗ばむ程の暑さの中、車で船橋市の三番瀬にシギ、チドリを見にいきました。潮が引いた浜や潮だまりでは沢山の種類のシギやチドリが羽を休めたり、砂浜をほじくったりしていました。半ズボンにサンダル履き、双眼鏡と重たい望遠レンズを担ぎ、濡れるのも忘れて波打ち際まで入り、鳥たちを驚かさないように近づき夢中でシャッターを切っていました。

夏の海で、風に吹かれながら陽を浴びるのは、「クーラー効いた部屋で、物憂く過ごす夏の日」のストレス解消とビタミン補給となるように思え、今年も再訪したい・・・と。



アジサシ



オオソリハシシギ



トウネン



ダイゼン





キアシシギ



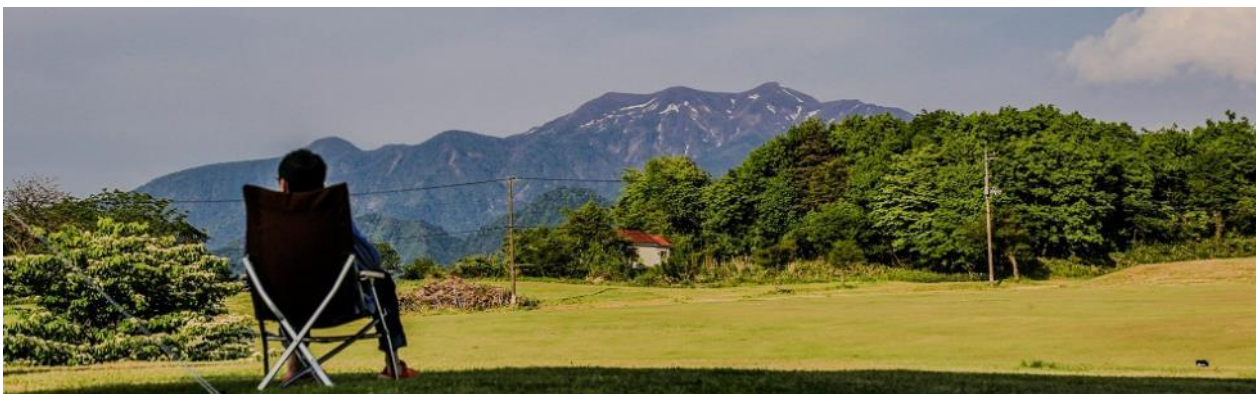
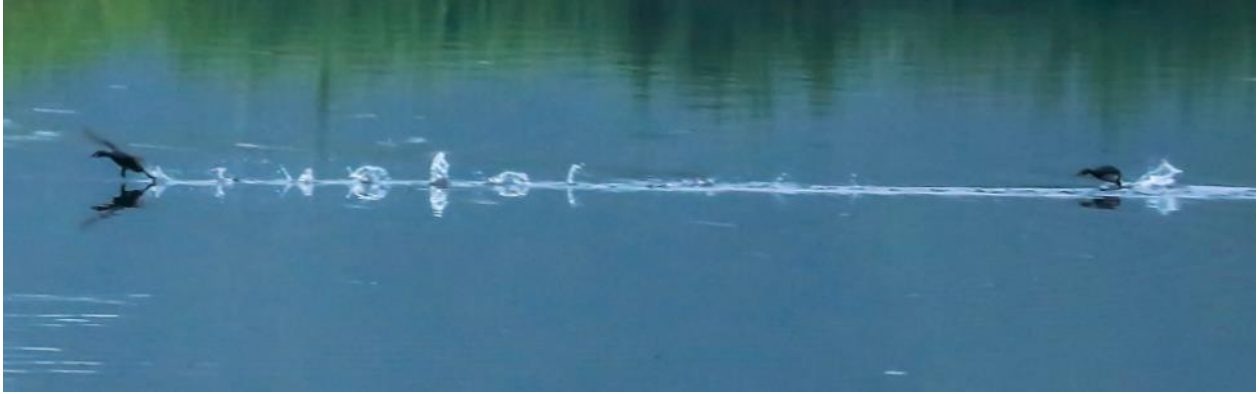
ミユビシギ

世間とか世俗とかからの情報を断ち切り、煩わしさを避けたテントでのキャンプを経験しました。日が暮れば明かりを灯し、火を起こして食事をし、暮れゆく夕空に運が良ければ満天の星を眺め、明日の朝日を拝む時までちょっと狭苦しい寝袋に収まって一夜を明かす。陽が昇れば、水の冷たさを感じながら洗顔し、朝もやの森や野原、湖畔や浜辺を散策。戻ると湯を沸かし、コーヒーの香りに包まれ、朝日の温もりを体中で感じながら朝食をとる。「時の流れ」に身を任せれば、「一日の時間の流れは、本人次第」「何とゆったりしていることか」、と改めて知った次第です。

体力の衰えた現在、自然と遊び・親しむために、宿に泊まって湯に入り、トレッキングや登山するやり方とは異なった方法に目覚め（「達成感と心地よい疲労感の残る山行き」と「生への充実感と戻って甦る至福感」の違い）、テントに・寝袋にとアウトドア用品を揃え始めています。令和元年の今夏は、いつでも気軽にできるキャンプ遊びにチャレンジしようと思っています。









今回は、鳥見にとって「夏枯れ」のシーズンため、あまり散策のお役にたてる情報を載せられませんでした。それ故、カメラ目線で「ハッとする瞬間」を見つける散策に、『今夏チャレンジしてみよう』と題しました。涼しくロマンチックになれる秋に向けて、俺の・私の「小さい秋」を見つける練習の散策にしてみてもいいでしょうか！

次の一連のスナップは、最近の梅雨の晴れ間の散策のものです。



雲の切れ目から一瞬陽が差し、また曇ってしまった朝方

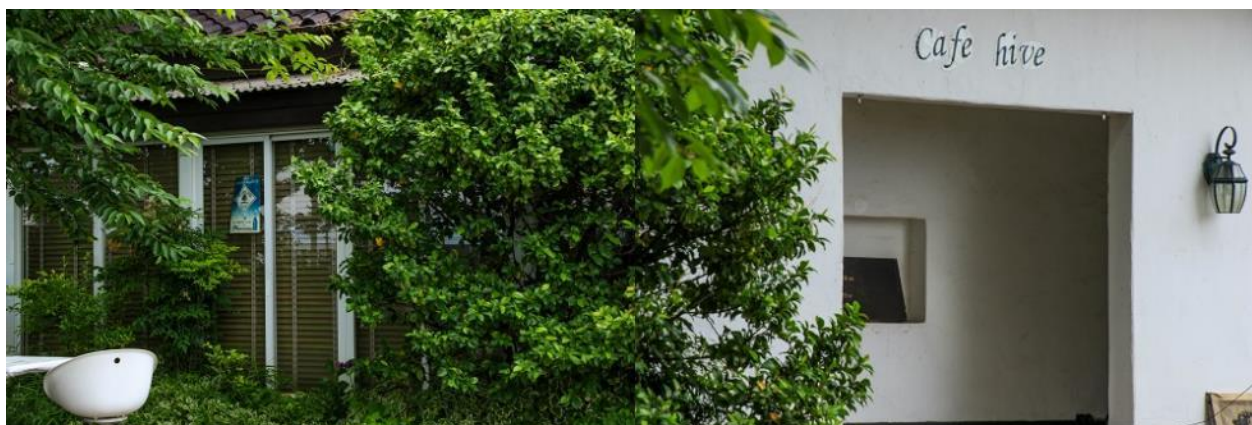


第2 調整池付近の畔のヒバリと その頭上を飛翔するダイサギ

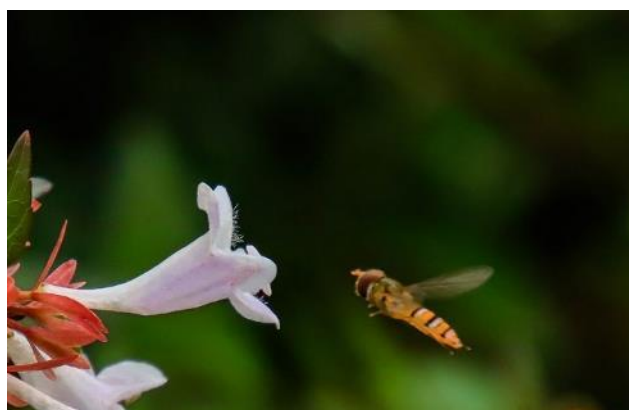




畦道の草むらの朝露



ちょっとしゃれて見えた戸頭のカフェ



次回 秋ぐちにお会いしましょう…

3丁目のバーダー・サトー 佐藤 健三